

- 5 / 5 晩にウラジオに向かう。
- 5 / 7 正午の汽車でニコリスクに行く。アルセニフ博士同行。ニコリスクのフェオドル教授宅でアルセニフ博士らと晩餐会に招待される。
- 5 / 9 午後5時の汽車でハルビンに向かう。ウスリー流域を走り、グロデコウを経て、夕方の7時頃ボクラチヤに着く。清溝嶺の麓にある、ロシアと支那の国境。満鉄出張所の満鉄代表の楠瀬長生等が出迎え。
- 5 / 10 松花江流域の阿什河を経てハルビンに到着する。プラットホームで考古学者のトルマチョフ教授や満鉄の堀内竹次郎等の出迎えをうける。
- 5 / 11 ハルビン市街を見物。トルマチョフ教授によると、ハルビン博物館は支那政府の管下になったという。
- 5 / 12 大連に向かう。長春で満鉄線に乗り換え、ヤマトホテルで休憩。5 / 13晩9時ごろ大連に到着。
- 5 / 14 朝8時10分の急行で大連駅を出発。午後3時奉天駅に着く。満鉄医科大学佐藤教授が出迎え。ヤマトホテルに入る。日本の總領事館を訪問、林總領事に「御目に掛り蒙古入の打合せをした」。「南北戦争の為、敗残の北軍が算を乱して、何日何時北方の何れかの方面に武器を持って乱入して来るか計られぬとの事」であった〔鳥居君子1928〕。
- 5 / 16 午後1時半、大連行きの汽車に乗る。龍藏は午前中、満鉄の医科大学病院で耳の治療をうける。車中、マンチュリの日本領事館の田中領事に会う。
- 5 / 17 午前8時半大連駅に着く。鳥崎の出迎え。ヤマトホテル。満鉄本社を訪問。「大連御滞在の肅親王は、川島氏と共に私共を訪問された」〔鳥居君子1928〕。
- 5 / 18 奉天にもどる。熱河をへて蒙古に入るのは危険、林總領事と相談し、鄭家屯に出て肅親王の紹介でトシエトト蒙古に入り、東西チヨロツト蒙古からアルコンチン蒙古を通り、バーリン蒙古の遼の遺跡地に進むことにし、護照の手配を依頼した。
- 5 / 19 午後5時ごろ護照がおとり。奉天を出発して四平街に夜10時ごろ着く（植半旅館）。
- 5 / 20 満鉄支社を訪問。宇佐見顧問と会う。
- 5 / 21 朝7時発の汽車で鄭家屯に向かう。午前中に着き、午後日本領事館を訪問。領事の話によると、「大分北京方面の様子は悪く、既に在留邦人の内婦人子供の或部分は、此の街を引上げ今領事婦人も、お引上げのお支度の最中で、御目にかかる事が出来なかつた」。鄭家屯の満鉄公所長の菊竹が出迎え。「トシエトト蒙古廻りを又中止して此処より蒙古入りの用意に取りかかる。馬1頭の相場は百円位であった。車2台、馬夫2人、ボーイ2人、厨子、通訳、護衛兵数人、テント、寝具、炊事道具、二三ヶ月分の食料品などの準備」を菊竹公所長に依頼。
- 5 / 22 満鉄公所を出発。三頭立の馬車2台に分乗してウブゲン廟に日帰りする。
- 5 / 23 「不安」な情報がある。菊竹の採集品を調べているが、領事館から「鳥居一行の蒙古入は見合せる様に」との通知があった。満鉄本社からも同じ通知であった。「マン

チュリの方から這入ることにした」。

5/26 鄭家屯から四平街をへて、長春に向かう。ヤマトホテル泊。夜半長春発の汽車でハルビンに向かった。

5/27 朝ハルビンに着き、北満ホテルにはいる。ハルビンの街は「外国人五分、支那人四分、日本人一分」であるという。外国人の多くは露国の帝政時代の人々。日本總領事館その他満鉄公所を訪問。

5/29 早朝、ハルビン駅からマンチュリに向かう。大興安嶺山中を横断する。

ハイラルからマンチュリに着く。ホテルの隣りが領事館。田中領事と会う。田中領事から、「七日間以上の蒙古入を禁ぜられる」。「万一の場合探しに行くのが大變だから」という。目的地にたつするまで約2週間を要するから、断念する。「明朝は早速にハルビンに引返す事として、今夜はすつかり荷物の準備をした。之迄寝具類其他食糧品類の重荷を折角此處まで運んで来たが、もう必要ないのですつかり捨てる事にして、ホテルに残した」。

1919年7月6日鳥居龍蔵は日本軍司令部高柳參謀長と同行してオムスクに向かい、チタに到着している。「セメノフ將軍」と交渉し、駐屯師団司令部および特別機関を訪れた。チタは「コサック軍団本部（セメノフ將軍）の所在地」である〔鳥居龍蔵1922〕。チタから満州里地域の政治状況を記述している。

満州里は「ロシア人、シナ人の土人多く、蒙古人も亦來集しつゝあり。商業上將來注目すべき要地なり」。さらに海拉爾に往く。この地はシベリヤ、満州、蒙古の三方面に於ける各民族の集合場で、バラカ蒙古、ソロン人、ダウル人、附近にオロチョン人が居住するという。清朝に衙門を設け、満人の官吏を常に駐割させ、近時海拉爾附近に呼倫貝爾政庁を設け、「シナ政府の手を離れて自立独立の国をなしたり」。いわゆる「極東共和国」である。この「極東共和国」は日本軍のシベリヤ撤兵の20日後にソビエトロシアに吸収され、滅びた。

此の独立には、背後にロシア操縦の手潜みしが如きも、兎に角シナより独立したるが事実なり。而して政庁に属する民族は、ダウル人、ソロン人、バラカ人、オロチョン人其の他なほ種々あり。

人口一万人余を算す。而して政庁は独立権を以て紙幣を發行し、布令布達をなし、租税の徴収をも執行す。在留のシナ商人も、甘んじて租税を納附するの状態なり。興安嶺の西、海拉爾を中心とせる一郭に於て、斯かる政庁の存在することは頗る注意すべきものとす。而して政庁を組織する人々は、固よりシナ人に非ず、又ロシア人に非ず、一種特別なる民族の結合に依るもの、亦興味ある事実と謂ふべし（鳥居龍蔵1922『北満州及び東部西伯利亞調査報告』）。極東共和国は1920年11月に日本軍の支援したセミョーノフ軍がソビエテ・ロシアがチタから撤退した後を襲って、クラスノチョコフを首班として成立した。これは、バイカル湖以東の日本軍とソビエト・ロシアとの直接対決を避ける緩衝国家として、ポリシェヴィキが巧みに考えついた側面が強い〔山内昌之1999〕。

5/30 ハルビン行きの汽車に乗ることにして、発車時間まで郊外の丘にのぼる。停車場では